

平成27年度 全国学力・学習状況調査

～河南町立小・中学校の結果の概要～

この調査の目的は、全国小学6年生、中学3年生の児童生徒の学力・学習状況を把握し、課題の検証を通して改善に生かすためのものです。

1. 調査結果の取り扱いについて

- (1) この調査は、序列化や競争を目的とするものではありません。
- (2) この調査で測定できる学力は、特定の一部分であり、学校の教育活動の一側面です。

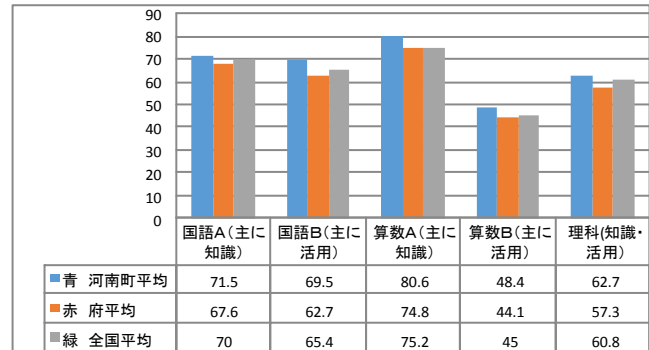
2. 小・中学校の調査結果の概要

平成27年度全国学力状況調査小学校正答率(%)

【学力に関して】

(1) 小学校

全教科・区分において、概ね理解できています。課題のある部分を詳細に見ていくと、教科別では国語の主に知識・技能を問うA問題で、表現の工夫を捉える問題や、必要な情報を読み取る問題で正答率が低くなっていました。理科では、電磁石の性質、実験結果からの考察や分析問題、実験器具の名称を答える問題など、知識・技能・活用を問われる問題共に課題が見られました。



(2) 中学校

町内では1校ですので平均正答率の数値は公表しません。結果概要については、国語A・B、数学A・B、理科の全ての教科において府・全国平均を上回りました。課題のある部分を詳細に見ていくと、国語A問題において語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題で正答率が低くなっています。数学A問題では「比の意味」「平行移動の図形の作図」「二元一次方程式の特徴」を答える問題等で正答率が低くなっていました。理科でも「塩化ナトリウムの化学式」「天気図内の記号の意味」等、主に知識を問われる問題で低い正答率でした。

※無回答率は、小学校理科で、全国の平均よりもわずかに上回りましたが、他の教科や区分では無回答率は、府や全国の平均よりも大きく下回りました。町の児童生徒は、深い思考が求められる問題等にも前向きに取り組む姿勢が見られました。

【学習状況に関して】

児童・生徒アンケートの結果は府・全国全体概要とほぼ同様の傾向でした。以下に挙げるのは、町として大切にしていきたい点です。

- ・「授業内容がよくわかる」との回答が小学校(国算理)で8割5分、中学校(国数)でも8割近く、「勉強が好きだ」との回答が小学校(国算理)6割～8割、中学校(国数)も5割以上ありました。今後も「勉強が好きだ」「もっとわかりたい」という思いに十分応えていく授業の実現を、学校で継続していく必要があります。
- ・「学校のきまりを守る」との回答が小学校、中学校で9割をこえていて、府・全国平均と比べても上回っています。
- ・「宿題をする」との回答が小・中学校ともに9割以上ですが、「自分で計画を立てて勉強している」との回答が小・中学校で5割～6割にとどまっています。今後さらに自学自習力の確立が目標です。
- ・「読書が好きである」との回答が小学校で7割、中学校では6割を超えていますが、「平日全く読書をしていない」との回答が小中学校で3割近くありました。しかし、小学校では「読書が好き」と答える児童が7割を超え、読書習慣も少しずつ定着しているので、引き続き取組の継続が必要です。

3. 課題解決のために

- ・子どもたちの興味関心が高まる魅力ある授業に取り組みます。
- ・自学自習力育成のために、宿題の工夫や具体的なやり方など、学校と家庭が連携して子どもたちへアドバイスしていきます。
- ・授業規律をはじめ、学校生活における規範意識をさらに高めるよう努めます。

※日々の教育活動実施にあたり、今後とも保護者、地域の方々のご理解・ご協力をいただきながら取り組んでまいります。